

茅野市 八ヶ岳通信



■守矢史料館

諏訪と武田信玄

武田信玄と諏訪神社とは密接につながりがあります。武田家にとって、諏訪神社は古くから信仰の対象であり、鎌倉時代に編纂された『吾妻鏡』には、武田信義が諏訪神社の協力で、合戦に勝ったことが記されています。天文11年(1542)6月に諏訪地方を治めていた諏訪頼重が信玄に敗れた後、諏訪上社の神長官を勤めていた守矢頼真は武田信玄に味方し、諏訪上社と信玄は一層密接な関係となり、信玄は諏訪神社を厚く保護しました。

このため、信玄の諏訪神社に関する古文書が多く残されており、神長官守矢家にも多くの信玄の古文書が収蔵されています。

今年はNHK大河ドラマで『風林火山』が放映されていることもあり、当館では信玄と諏訪に関する歴史の展示を行う予定です。

すでに、1月に「武田信玄の古文書」、3月に「諏訪と武田信玄－武田信玄以前の諏訪と甲斐」と題した企画展を行

いました。4月以降の企画展については、次の通りです。

・「諏訪と武田信玄－武田信玄の諏訪支配」

平成19年4月14日(土)～6月3日(日)

・「武田信玄の遺蹟」

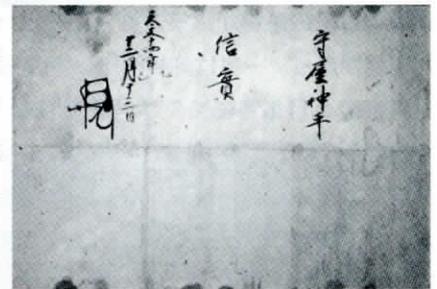
平成19年7月28日(土)～9月24日(月)

・「武田勝頼と諏訪」

平成19年11月23日(金)～12月23日(日)

また、5月6日午後1時より、諏訪市博物館・下諏訪町諏訪湖博物館合同で、諏訪市文化センターにおいて「信玄

が諏訪に遺したものと題して公開シンポジウムを行う予定です。皆様のご来場をお待ちしております。



武田信玄書状

■総合博物館

特別展「山田恭子のボタニカルアート」

同時開催「八ヶ岳植物写真展8,000点の植物写真から(仮)」

●会期 平成19年7月21日(土)～8月31日(金)

山田恭子先生(塩尻市在住)からボタニカルアート(植物学的細密画)の原画20枚程度をお借りし、展示します。

また、当館にご寄贈いただいた八ヶ岳を中心とする8,000コマあまりの植物写真の一部も同時に展示します。



宇シマギキョウ 阿部義男(写)

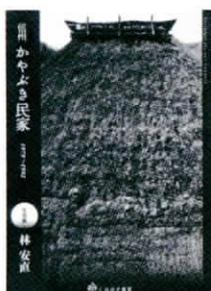


コマクサ 山田恭子(画)

写真展「かやぶき民家－諏訪を中心に－(仮)」

●会期 平成19年9月15日(土)～11月4日(日)

平成18年に「信州 かやぶき民家」がしなのき書房(長野市)から出版されました。この本の著者である林安直さんは、長野市在住、建築写真家。自らが撮影した1970年代から80年代にかけての古民家の写真を1万枚以上所有しています。出版された写真集には、掲載されていない諏訪・茅野の写真も多数展示する予定です。



資料紹介 中ッ原遺跡出土の浅鉢形・鉢形土器

茅野市湖東の中ッ原遺跡出土の土偶「仮面の女神」が昨年の6月に国の重要文化財に指定されたことは、すでにみなさんご存じだと思います。

今回の重要文化財指定にあたり、「仮面の女神」と同時期のもので、お墓の埋葬者の顔に被せられたと考えられる浅鉢形土器と鉢形土器8点が、縄文時代後期の葬送儀礼や当時の死生観を知る上で貴重な資料として、一緒に重要文化財に指定されています（写真右）。

これらの中には、「仮面土偶」と同じような顔が装飾として付けられているものもあります（写真下）。

これらの土器は、「仮面の女神」や「縄文のビーナス」と共に、常設展示されています。



特別展予告「尖石遺跡」

- 会期 平成19年7月14日（土）～11月4日（日）
- 場所 尖石縄文考古館特別展示室

平成2年度から行ってきた尖石遺跡の試掘調査がほぼ終了したことを受け、新しく出土した資料を公開する特別展を開催します。

試掘調査は、遺跡の範囲や住居跡の位置を確認する目的で行われました。2メートル四方の升目を規則的に掘っていくという方法で、住居跡を見つけていきますが、宮坂英式先生の調査したものも含め、219軒もの住居跡が尖石遺跡周辺にあることがわかりました。

発見した住居址は、一部を調査しただけですが、多くのすばらしい出土品がありました。

これまでも毎年調査成果を入れ替えながら展示し、公開してきましたが、これらの新しく出土し、収集した資料をできるだけ多く公開し、尖石遺跡の集落がどのように変遷していったのかを、わかりやすく展示します。



活動記録

「仮面の女神」重要文化財指定イベント

尖石縄文考古館では、昨年6月の「仮面土偶」重要文化財指定を記念し、様々なイベントを開催してきました。

- ①中ッ原遺跡見学会とフリートーク
- ②仮面の女神を作ってみよう（制作会・野焼き会・展示会）
- ③仮面の女神にさわって観察
- ④特別展1「中ッ原遺跡展“仮面の女神”誕生の縄文ムラ」
- ⑤仮面の女神の絵を描こう（制作会・展示会）
- ⑥特別展2「縄文時代後期の茅野」
- ⑦第3回信州黒耀石サミット

茅野市の博物館・文化財課だより **八ヶ岳通信 No.25** 発行年月日 平成19年3月31日

編集・発行	茅野市神長官守矢史料館 〒391-0013	茅野市宮川389番地の1	TEL (0266) 73-7567
	茅野市八ヶ岳総合博物館 〒391-0213	茅野市豊平6983番地	TEL (0266) 73-0300
	文化財課 〒391-8501	茅野市塚原2丁目6番1号	TEL (0266) 72-2101
	茅野市美術館 〒391-0005	茅野市仲町1-22	TEL (0266) 82-8222
	茅野市尖石縄文考古館 〒391-0213	茅野市豊平4734-132	TEL (0266) 76-2270

美術館この一年

郷土美術館としての26年間の歴史と、文化複合施設内に移転した変化。そのはざま、茅野市美術館のあるべき姿と可能性を探求し続けた一年でした。今年度の当館の活動を、「展覧会・催しもの」「サポーター」「収蔵作品」という3つのキーワードごとにたどります。

■展覧会・催しもの

常設展では、館の収蔵作品を年数回の会期に分けて展示し、郷土ゆかりの作家たちの活動を紹介しています。



「常設展Ⅲ」ギャラリートークの様子(講師:篠原昭彦氏)

今年度は、年間4回の展示替えごとに、「小堀四郎特集」「高原に集った画家たち」「都市の風景」などの特集を設け、様々な角度から作品や作者の魅力をとらえられるよう努めました。

また、企画展として、「高知県立美術館コレクション マックス・クリンガーとドイツ表現主義の版画—幻想と現実を刻む線—」(会期：平成18年7月1日～7月31日)を開催しました。



「マックス・クリンガーとドイツ表現主義の版画」展

版画家として名高いドイツの芸術家マックス・クリンガー(1857-1920)や20世紀初頭のドイツ表現主義の貴重な版画作品を高知県立美術館から借り受け展示した本展。会場は幻想的な空気に包まれました。会期中には、美術に限らず音楽や映画の分野での関連企画を市民館各所で行い、文化複合施設ならではのスケールの大きな企画となりました。

このほか、年度末から新年度にかけて、2つの展覧会「信

濃美術の青春—諏訪・上伊那 洋画の足跡—」(会期：平成19年3月10日～25日)「富永直樹作品寄贈記念展」(会期：平成19年3月30日～4月13日)を開催します。(※平成19年2月20日現在)

展示室を出たロビーでは、音楽写真家木之下晃氏が講師をつとめるワークショップ「人生のマエストロ—寿齢讃歌(すばらしきひとたち)」参加者の作品展示会(会期：平成18年4月15日～24日)を行いました。この企画は19年度も継続して行う予定です。

皆様のご来館をお待ちしております。

■サポーター

美術館サポーター養成講座修了者が中心となり、平成18年4月に美術館サポーターグループ「美遊 com. (ビューコム)」が発足しました。

先述の木之下晃氏が美術館サポーターと接し、「茅野市



木之下WS「人生のマエストロ—寿齢讃歌」作品展示風景

民のボランティアの人の和は実に見事であった。※)」と記されているとおり、「美遊 com. (ビューコム)」メンバーは和やかに意欲的に活動を続けています。

■収蔵作品

平成18年12月に、文化勲章受章者で蓼科にゆかりのある彫刻家、富永直樹氏のブロンズ彫刻作品「僕らの遊び場」[A PAEAN (賛歌)]が茅野市に寄贈されました。これを記念して、「富永直樹作品寄贈記念展」(会期は前述)を開催します。豊かなロマンと優しさ、ユーモアにあふれる富永氏の作品の世界をご堪能ください。

現在、当館が所蔵する作品の基本情報をまとめた書籍「所蔵作品目録」を作成しています。今後、作品を探したり紹介したりする際に不可欠な資料となるでしょう。

※)『音楽現代6月号』(芸術現代社、2006年、P.9)

永明中学校グラウンド遺跡の発掘調査

平成17年秋、永明中学校の校舎沿いに計画された下水道工事に伴う発掘で、本館棟の職員室前から発見された弥生後期の住居跡を市教育委員会が調査していた際に、2年4部から発掘現場の見学依頼がありました。同クラスでは翌年度の『総合的な学習の時間』に取り組む内容を探していた時期とも重なっており、平成18年に生徒達と発掘調査を行うことになりました。

永明中学校周辺の築地、阿弥陀堂と呼ばれる地域にかけては、大正時代刊行の『諏訪史』第1巻に、弥生時代や古墳時代以降の遺物が採集され



【文化祭で発掘調査の説明をする生徒】

た記録があり、一帯は弥生時代以降の「茅野」の中心地であったと予測されていました。

発掘は5月上旬に始まり、週1回のペースで実施、夏休み中に「土器が出る土層」を掘り終え、2学期は住居跡の平面図や土層断面図の測量作業を行いました。9月の文化祭には中間発表会と現場見学会で成果を公表、11月下旬に重機と人力で埋め戻し作業を行い、現場作業は終了しました。この間、19回の発掘調査を実施し、延べ約50時間、調査面積は28㎡となりました。調査の結果、弥生時代後期の住居跡1軒、鎌倉～江戸時代の建物跡1棟などの遺構と弥生時代後期の土器を主とする遺物が約500点見つかりました。

今年1月には尖石縄文考古館特別企画展に併せて「永明中学校グラウンド遺跡発掘調査発表会と講演会」を2回開催し、生徒34人による発表も行いました。



【発表風景】

今回の発掘調査では、①「弥生後期の地形を明らかにし、集落の範囲を絞り込む」目的を持った学術調査として取り組み、明かにした。②考古学上の学術的な目的のほかに、「遺跡を教材に活用し「発掘調査に関わる様々な仕事を体験」する学校教育上の目的を持ち合わせ、今後の埋蔵文化財行政の一指針となる取り組みとして実践した。③調査区の設定から測量基準の設置、表土剥ぎおよび埋め戻し作業は、民間業者との連携、協力により行われ、生徒たちの熱意にいろいろな立場にある大勢の人々が応え、生徒達もその思いを感じ、より意欲的に作業に取り組めた。以上の成果があったように思います。



【最後に皆で感謝のあいさつ】

調査の目的であった弥生後期の地形は本館棟側から体育館側へ向かって緩斜面となっていることが分かりました。低地側に新たな住居跡は発見されなかったことから「地形の低い体育館側は洪水などの自然災害に遭う確率が高く、厚い黒土の堆積により地盤が軟弱となっているため、住居の構築に適さなかった」と考えられます。当時の地形が高かったと考えられる職員室付近から東側が校舎付近における弥生後期の集落の中心であった可能性があります。今回の発掘調査は面積も少ない断片的な調査でしたが周辺における今までの成果と考え合わせると以上のような推測ができます。

今後も埋蔵文化財に対する市民の皆さんの一層のご理解、ご協力をお願いします。